

# バイオクライマティックデザイン小委員会 (出版 WG) 議事録

記録：北瀬、廣谷

日時：2009年 8月17日(月) 17時～19時

場所：建築会館会議室

出席者：須永修通(首都大学東京)、長谷川兼一(秋田県立大学)、斉藤雅也(札幌市立大学)、鈴木信恵(東京都市大学)、北瀬幹哉(環建築舎)、金子尚志(エステック)、廣谷純子(オーガニックテーブル)

## 1、全般について

齋藤：本日より金子氏に参加いただくことにする。

→ 全員で了承。

須永：タイトルは変えなくてよいか。

金子：今まで出ていない言葉なので、この名前を世に問うのがよいのではないか。

長谷川：サブタイトルは議論が深まってから考える。

→ このタイトルで行くことを確認。

須永：対象者は？

金子：サステイナブル委員会では出版社に学生向けにしないと売れないといわれている。

→ 学生から若手の設計者にむけての本とする。

金子：早めに出版社に入ってもらったほうがよいだろう。彰国社に相談してみる。

須永：年表は授業で活用できるようにトピックをまとめ、精査したほうがよいだろう。

マップについても、年表とセットで1章に入れた方がよい。

## 2、各章について

### ①1章について

長谷川：対談については、対談のシナリオをつくってから対談を行う。

廣谷：人がかかわるデザイン、行動も含めたデザインを考えていこうというのがこの本の趣旨になると思う。キーワードは目に見えないもののデザイン。

須永：昔は計画原論といって、計画と環境工学が一体だった。その後、環境工学が理論、物理のほうへ進んで狭い分野での研究になってしまい、結果的に計画(デザイン)のほうへ使いにくくなった。

廣谷：自己紹介や各人の意見を述べる時間を短くして、対談の時間を長くとるためにも、各氏より対談のキーワードについてA4 1枚のレポートをつくってもらってから対談をしてはどうか？掲載

レポートは、コラムとして掲載すればよい。

須永：1章は全体で8ページくらいにしてはどうか。

### ②2章について

前回の資料を具体化することを進め、今回は議論を省くこととする。

### ③-1 3章について

→対談について、2章と同じく各氏にそれぞれの立場における体験・体感の重要性について、コラムを依頼して、それを前提に対談を行うこととする。

→

須永：3章の2「みつけるしかけ」における建築的な解説のイメージは、問題点あつての解決策という意味。例として、黒松内中の場合、暗い、寒いという課題があり、それを建築的にトップライトで解決し、トップライトの効果を教育で伝えるているという例。ガラスのトップライトという建築的な解決策を通して、光環境はよくなっているが、熱的には不利になっているなど、ハードの解決策について技術的に解説も必要なのではないかな？

自宅の断熱内戸の改修を熱の事例として挙げたい。各テーマ1つとは限らず、2から3つくらいあつてもいいのではないかな？

→熱、光などテーマごとに2~3つを探す。

1つにつき、見開き2pとし、10~20コを掲載。総数としては20p~30pを想定する。

### ③-2 見えないものを見ることについて

長谷川：設計のプロセスを公開してもらって、事例を対談で説明してもらってはどうか？

工務店は自分でつくったもののデータを見ることがないので、そのデータで初めて知ることができるなど、具体的なデータを見せると人は変わる。

金子：トステムでも風のシミュレーションを行いお客さんへ見せている。

斎藤：電気料金の請求書に使用量のグラフがついてくるとよい。

金子：研究室で学生に放射温度計で熱画像をつくらせることをやった。

鈴木：子どもたちへのワークショップで断熱材を知っていた。TVのビフォーアフターで学んだようだ。

### ④4章について

斎藤：4章のまとめで10個くらい設計とリンクするような授業を照会できると面白いだろう。

### 3、今後の進め方について

- ・小委員会で承認を得る。小玉先生にも出席していただき、アドバイスをもらう。
- ・対談をお願いしたい先生方に、学会の会場で相談をする。
- ・2章の実例、3章のみつけるしかけについてのレイアウト案を作成してみる。
- ・その他 出版に向けて議論する必要があること

学会の委員会成果報告集のような体裁をイメージしているか、戦略的に売れる本をとことん目指すのか（できれば、売れる本づくりを目指したい。）

執筆者への原稿料とその財源、

何部出版するか、（これによって、出版社が絞れる）

### 4、次回について

10月9日18:00からとし、小委員会形式とする。